

コミュニティ・スクールだより

第24号

名張市教育委員会事務局
令和3（2021）年12月2日発行

令和3年度 教育実践交流会 開催

テーマ

～コミュニティ・スクールの推進・充実～

11月27日（土）に令和3年度名張市教育実践交流会を開催しました。この教育実践交流会は、子どもたちにとって望ましい教育環境や学校等における教育実践について、関係者が一堂に会して共通理解を図り、取組の発展につなげる機会が必要であることから、教育課題や重点取組の一つをテーマに開催することになりました。

本年度は、令和2年度に市内全ての小中学校が学校運営協議会設置校（コミュニティ・スクール）となったことを踏まえ、「コミュニティ・スクールの推進・充実」をテーマに実施しました。

当日は、100名を超える方の参加をいただき、錦生赤目小学校と北中学校の実践発表に引き続き、短時間ではありましたが、全体会の中で発表いただいた4名の方と参加いただいた皆様との意見交流を行うことができました。

最後には、三重県教育委員会事務局小中学校教育課の森清知指導主事に名張市の取組についてご助言をいただきました。

全体会でのご意見から・・・

全体会で地域の皆様から、「ふるさとを愛する気持ちを持ってもらいたい、地域の良さを学んでもらいたい」「学校は地域の中心地であるから、入りやすい、親しみやすい学校づくりをしてほしい」「学校のお役に立てることがうれしい」「地域が学校をバックアップして、子どもたちを一人前にするために頑張っていく」等の意見が出されました。これは、子どもたちの学びや成長を中心に据え、コミュニティ・スクールに関わる皆さんに共通した思いであると感じました。



☆錦生赤目小学校の実践発表☆

「コミュニティ・スクールから見えてくるもの～これからの学校と地域のつながり～」

発表者：校長 谷口雅彦 さん、学校運営協議会会長 藪本寧男 さん

素晴らしいと感じたことは、学校運営協議会で、学校からの一方的な説明に終わらせず、具体的なテーマを設定して、毎回熟議を行っているということです。その時々が必要となるテーマについて、学校や地域に何ができるかということ議論し、具体的な取組につなげているということは、まさに、学校運営協議会の本来の姿であると思いました。どうしても、毎年行っている学校行事についての話が中心となっているという学校が多い中、大変意義深い取組であると思います。また、地域貢献の場づくりにおいても、子どもが参加するだけでなく、参画する取組にしていくということも素晴らしい。そこに、学校支援ボランティアの方々が様々な形でご協力くださることによって、学校と家庭、地域が一体となって、地域の子どもの成長を支えていただいているということが伝わってきました。会長さんが、「学校や地域が変わってきた、地域が学校に親近感を感じている」とお話しいただいたのは、学校運営協議会で、熟議を重ねて、それを実行しているからだと思います。子どもたちや教職員、そしてボランティアや地域の方々のどちらにとっても意義深いものになっていると思います。

【県教委小中学校教育課 森清指導主事の助言より】



☆北中学校の実践発表☆

「より実働的な学校運営協議会をめざして」

発表者：校長 山崎博史 さん、学校運営協議会副会長 古谷久人 さん

コミュニティ・スクールの組織づくり、体制づくりについて教えていただきました。学校運営協議会だけでなく、学校運営部会、学校支援部会、地域連携部会の3部会の部会長会という組織があるというのが、特徴的だと思いました。その会で、学校運営協議会のあり方や持ち方について常に検討し、また、しっかりと打ち合わせを行うからこそ、それぞれの部会が担当する分野も多岐にわたりますが、北中学校に関わる全ての方々が自分事として捉えて、立ち上げから大切にされている当事者意識を持って活動を進めているというように思いました。円滑な学校運営協議会のために、事前に資料を配布したり、熟議のテーマを予告したりするという取組や、学校運営協議会について、教職員がなかなか関わりを持っていないという課題もある中、その意見や思いを反映させるということも素晴らしいと思いました。

【県教委小中学校教育課 森清指導主事の助言より】



～市内全ての学校、地域、学校運営協議会で～

今後は、校長をはじめ先生方や地域の皆さんが集まる機会等に、それぞれの学校運営協議会の運営やコミュニティ・スクールの取組等を共有し、学校と地域をつなげ、より広がりのあるものにしていきましょう。また、中学校区内の情報共有することが、より一層、実効性のあるものになっていくと考えています。

学校・家庭・地域・児童生徒のつながる仕組み＝コミュニティ・スクール